

渡嘉敷村 観光振興計画

2018 - 2022



<目 次>

1 章 計画策定の基本的な考え方	1
1－1．計画策定の背景と目的	2
1－2．計画の構成と期間	3
2 章 渡嘉敷村観光の現状と課題	5
2－1．上位関連計画	6
2－2．渡嘉敷村の観光状況	10
2－3．渡嘉敷村の観光関連調査結果	14
2－4．渡嘉敷村の観光課題の整理	25
3 章 渡嘉敷村観光振興計画	27
3－1．基本理念	28
3－2．基本方針	29
3－3．基本施策と取組みの体系	30
3－4．具体的な取組み内容	31
3－5．取組みの効果を検証するための目標値	49
4 章 観光振興計画推進に向けて	51
4－1．推進体制	52
4－2．推進に向けて果たすべき役割	53
4－3．進捗管理	54
5 章 資料	55
5－1．計画策定の経緯	56
5－2．計画策定の策定委員	57
5－3．パブリックコメントでの意見	61

1 章 計画策定の基本的な考え方



1 章 計画策定の基本的な考え方

1 - 1 . 計画策定の背景と目的

渡嘉敷村は、豊かな自然に恵まれているとともに、特有の生態系、並びに固有の文化・歴史など、他にはない様々な観光資源を有しています。そんな中、平成 26 年 3 月 5 日には、渡嘉敷村と座間味村からなる慶良間諸島が全国で 31 番目の国立公園に指定されたことにより、慶良間諸島としても注目を集め、近年、観光客が増えています。

また、平成 28 年には、国立公園を世界水準のナショナルパークとしてブランド化することを目的とした「国立公園満喫プロジェクト」に選定され、これまで以上に外国人からの注目が高まることが予想され、それに伴った観光客の受入体制を整えていく必要があります。

その他、沖縄本島からのアクセスの良さ（泊港から高速船で片道約 35 分）も今後の観光振興に向けて期待できる強みと言えます。

一方で、現状の村内の観光客受入体制をみると、観光事業者によりバラつきはあるものの、飲食店営業の不安定さや、人員不足、外国語対応など未だ十分な体制が整っておらず、サービス面で多くの課題を抱えています。

また、観光客の増加に伴い、自然環境への負荷もかかることから、村の財産である自然資源を守り持続可能な観光資源の確立のため、自然環境保全に向けた取組みも同時に行っていくことが重要です。

これまで、渡嘉敷村の観光振興についての計画がなかったことで、様々な団体・事業者が無秩序に取組みを行っていましたが、本計画を立てることで、秩序立てて各種取組みを行い、よりよい観光振興を進めていくことができます。

以上のことから、本計画は、今後 5 年間に本村が観光振興を進める上での基礎として策定するものです。

1-2. 計画の構成と期間

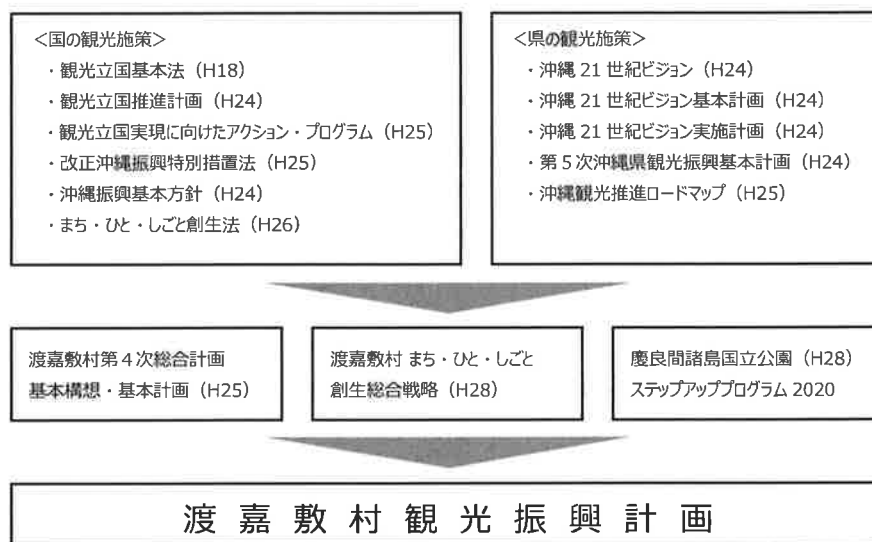
(1) 計画の構成

渡嘉敷村観光振興計画は、「基本理念」「基本方針」「基本施策」「具体的取組み」で構成します。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「渡嘉敷村第4次総合計画」「渡嘉敷村 まち・ひと・しごと創生総合戦略」「慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム 2020」に基づいた計画であるとともに、国や沖縄県の観光施策についても考慮して策定するものです。

■ 計画の位置づけ



(3) 計画の期間

本計画の計画期間は、平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 ヶ年とします。

また、本計画の取組みの進捗については、適宜確認し、必要に応じて見直しを図りながら進めていく予定です。

2 章 渡嘉敷村観光の現状と課題



2 章 渡嘉敷村観光の現状と課題

2 - 1. 上位関連計画

(1) 第5次沖縄県観光振興基本計画

沖縄県では、県の将来像を「世界水準の観光リゾート地」と設定し、将来像の実現に向けた施策の基本的な方向性と、圏域別の基本方向を示しています。

●将来像

「世界水準の観光リゾート地」

洗練された観光地としての基本的な品質を確保するとともに、独自の観光価値を発揮することにより、アジア・太平洋地域における競合地との比較対照の中で「沖縄／OKINAWA」のポジションが確立され、国内外において高いブランド力を保持する観光リゾート地として認知された状態となっています。

●施策の基本方向

- ①多様で魅力ある観光体験の提供
- ②基盤となる旅行環境の整備
- ③観光産業の安定性確保
- ④効果的なマーケティング
- ⑤推進体制の再構築

●南部圏域の基本方向

南部圏域の離島地域においては、ダイビングやホエールウォッチングに代表されるブルー・ツーリズム、保養・療養型観光、交流拠点づくりや離島留学など、島々に特有の自然・景観、伝統・文化等の魅力を生かした交流人口の拡大及び農林水産業等地場産業との連携による地域活性化に向けた取組を積極的に推進し、離島ならではの体験・滞在型観光を促進するとともに、離島を含む広域周遊ルートの形成や受入環境の整備に関係機関と連携して取組めます。

(2) 渡嘉敷村第4次総合計画

渡嘉敷村第4次総合計画は村の最上位計画として、本村が行う総合的な行政活動の基本となるものとして位置づけられています。

●将来像

「住むひと、訪れるひと、幸せを実感できる碧島 渡嘉敷村」

海と森の碧あふれる自然環境のもと、快適な生活を送ることができ、ふれあいの中で子どもたちが元気に育ち、ひととひとの結びつきのもと、みんなの笑顔が広がるむらを、新たな時代に向けた郷土のあるべき姿とし、これを村が目指す目標ととらえます。

これからも、豊かで様々な地域資源を活かして新しい価値を創り出し、村民の誰もが誇りに思える郷土を築いていきます。

●むらづくりの4つの基本理念

- ① 自然の恵み | 美しい風景を楽しむ碧島（自然の魅力）
- ② なりわい | 手づくりのある碧島（つくりだす魅力）
- ③ 暮らし | スローライフの碧島（しまの時間が流れる魅力）
- ④ ひと | 交流で心満たされる碧島（ひとのつながりの魅力）

●観光・交流活動の振興

観光振興計画をもとに、交流人口の増加と地域活性化に向け、多様化、高度化する観光・レクリエーションと交流のニーズに即した多面的な取組みを一体的に推進し、観光・交流機能の拡充に努めます。様々な世代や地域団体のふれあいを豊かにするとともに、自主的な交流活動を通して、広域的な連携ができるよう活発な情報の発信に努めます。

<主要な施策>

- ① 観光・交流資源の整備・充実・活用・維持管理
- ② 第1次産業と連携した体験型観光の充実
- ③ PR活動の推進
- ④ 広域観光体制の充実
- ⑤ 地域間交流等多様な交流の促進
- ⑥ 移住政策の推進

(3) 渡嘉敷村 まち・ひと・しごと創生総合戦略

渡嘉敷村 まち・ひと・しごと創生総合戦略では、目標年度を2019年(平成31年)とし、計画期間である5年間の取組みと、4つの基本目標を定めています。観光振興については、基本目標1、基本目標4の中で以下のように定めています。

●基本目標1

「^{しま}碧島の風景と自然環境に調和したしごとをつくり、雇用を創出する」

渡嘉敷島周辺の海域は、ラムサール条約に指定されています。また、渡嘉敷島、前島の海岸線の大部分と周辺無人島は沖縄海岸国定公園に指定され、世界的にも貴重な自然とその保護が図られています。そのような豊かな自然環境を活用し、碧島の重要な産業である観光産業の持続的な発展を図るために、観光地域づくりを担う組織の育成を推進します。

また、自給的農家が主体の本村の農業については、環境に配慮した農業振興を図りつつ、地域特性に応じた付加価値の高い特産品の生産を推進し、渡嘉敷ブランドの構築を行います。

水産業については、加工品等特産品の開発と流通ルートの開拓を行い、水産物のブランド化を行います。

【数値目標】 特産品の開発→目標値：2品(平成31年)

●基本目標4

「暮らしの安心を守り、やさしい^{しま}碧島のしくみをつくる」

渡嘉敷村にしかない恵まれた自然環境を守り育てることを戦略の要とし、環境重視の特色あるむらづくりを行い、自然との共生による碧島のブランド化の推進とプロモーションを行います。また、慶良間諸島として地域が連携し、一体となった観光地づくりを行い、戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーションを行い、地域の魅力を高めることで観光を振興します。

村内では、生活の安心・安全の確保、質の向上を目指し、幼・小・中一貫教育による質の高い教育環境づくりや、高齢者も安心して暮らせる環境など、全ての村民にやさしい環境づくりを行います。

【数値目標】 地域活動への参加→目標値：90%(平成31年)

※基準値 84.8%(平成27年)

(4) 慶良間諸島国立公園 ステップアッププログラム 2020

慶良間諸島国立公園は、平成 26 年 3 月 5 日に全国で 31 番目の国立公園として新たに指定されました。ステップアッププログラムは、慶良間諸島国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」とするため、慶良間諸島に適したコンセプトや目標を定め、具体的な取組や役割分担等について、2016 年度から 2020 年度までの 5 年間を計画期間とした「ロードマップ」として位置づけるものです。

●テーマ

「ちゅ うみ け ら ま 美ら海慶良間 - リトリート・海と島がつくるケラマブルーの世界 - 」

慶良間諸島においては、一度に受入られる利用者数に限りがあることから、大きな敷地に多様な付帯施設を擁し、多くの観光客を受入れる従来型の「リゾート」の対極として、小規模ながら利用者一人ひとりの満足度を向上させることを目的としています。日常生活からリトリートし、ケラマブルーの海や島がおりなす美しい景観の中で、ゆっくりとした時間を過ごすこと、暖かみのある集落で人と人との交流を深めること、非日常的な空間で自然体験をすることなどを通して、利用者の一人ひとりが満足し、満喫し、活力を持ってそれぞれの生活に戻ることができるよう、そしてまた、疲れた時には戻って来ることができる第二のわが家となるよう想いをこめ、このテーマが設定されました。

※リトリート（Retreat）とは、日常生活から離れ、自分だけの時間や人間関係に浸ることで、自分を見つめ直すこと。
また、少しだけ日常を離れて自分へのご褒美にゆっくりと過ごすこと。隠れ家。

●目標

①冬季の入域者の増加。それに伴う季節的利用変動の平準化

利用者数	平成27年度	平成32年度
冬季（11月～3月）	19,755人	34,000人 ※約14,000人増
全体（年間）	122,434人	137,000人 ※約15,000人増

②良質な旅の提供（利用者の満足度の向上）

慶良間諸島が有する自然・文化・気候・食等の豊富な観光資源を適切に保全しつつ、それらの魅力を十分に活用したサービスを提供する。

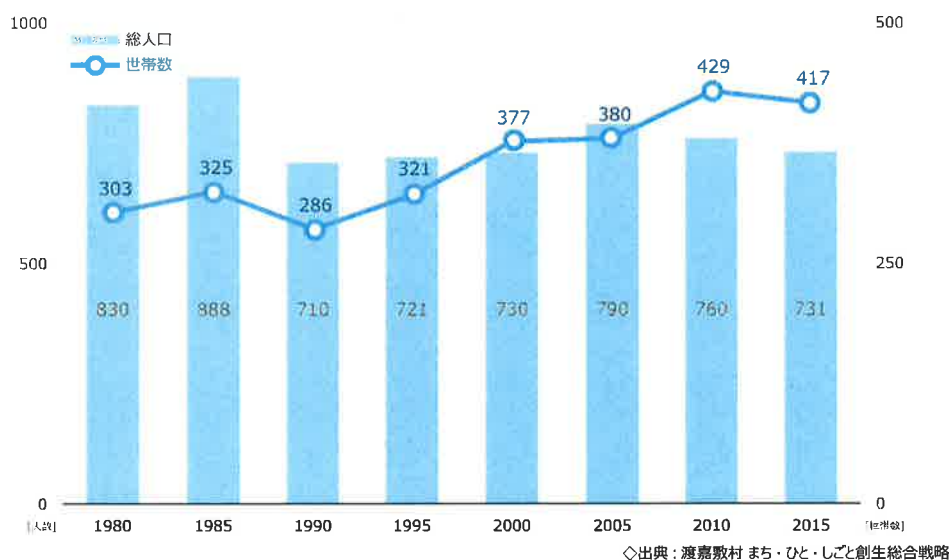
③通年延べ宿泊日数の増加及び一人あたり連泊日数の増加

宿泊利用を推進していくことで、利用者一人あたりの旅行消費額を向上させる。

2-2. 渡嘉敷村の観光状況

(1) 人口の推移

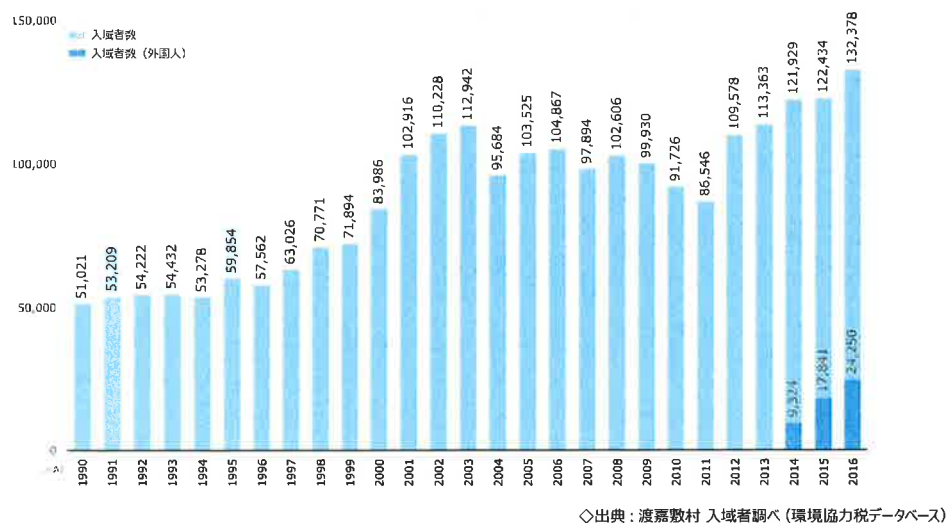
国勢調査によると、渡嘉敷村の人口は2015年度で731人、世帯数は417世帯となっています。1985年には900人近くまで人口が増加しましたが、その後は概ね減少傾向にあります。また、人口が減少している一方で、世帯数が増えており、核家族化の進行が伺えます。



(2) 入域者数の推移

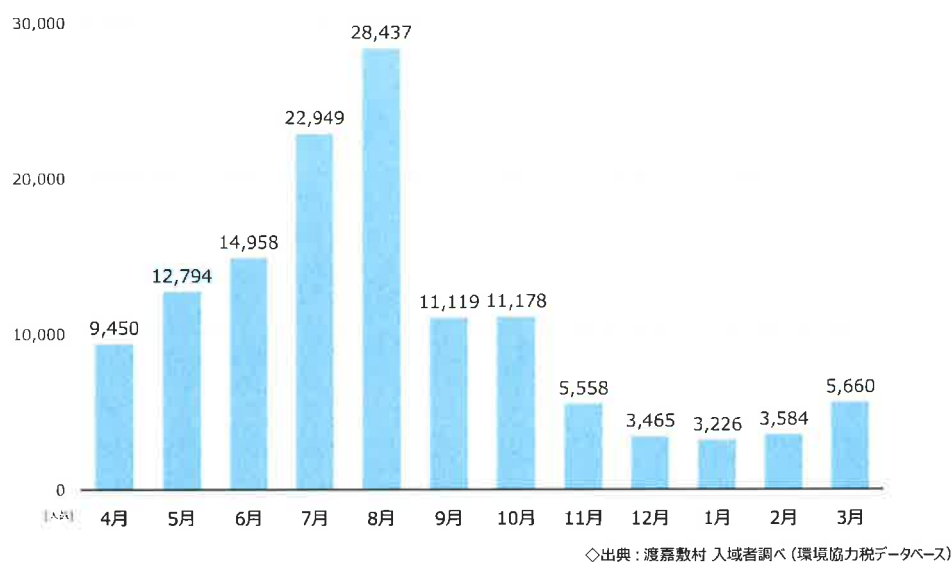
①年別の入域者数の推移

渡嘉敷島への入域者数は1990年から現在まで緩やかに増加傾向にあり、2016年には13万人を記録しました。また、国立公園に指定された2015年には外国人の入域者数が前年度の約2倍に増加しており、今後も外国人入域者数は増加していくことが予想されます。



②月別の入域者数の推移（2016 年度）

渡嘉敷村の 2016 年度の年間入域者数は 132,378 人と、これまでに比べ最も多い数値になりました。内訳を月別にみると、8 月の入域者数が最も多く、28,437 人となっています。一方で、12 月～2 月においては、各月 3,500 人前後と 8 月の約 12% となっており、月の入域者数に大きな差が生じています。



（3）観光資源

渡嘉敷村の観光資源は、山、川、海（ビーチ）に加え、渡嘉敷島周辺の 11 の島々など豊富にあります。また、古くから琉球と大陸を結ぶ、貿易の中継地であったことから、琉球文化やウタキをはじめとする琉球神道の文化財も多く残っています。さらには、第二次世界大戦に関わる歴史関連場所が多数点在するなど、その観光資源は多岐に渡ります。

●自然関連資源

項目	内容 ※代表的なもの
山	北山、アハリ山、大見座山 等
川	渡嘉敷川、大川 等
ビーチ	渡嘉志久ビーチ、阿波連ビーチ 等
島	ハナリ島、ウン島、儀志布島、城島、前島、黒島、拝島、中島、端島、ナガンヌ島、クエフ島、神山島
植物	オオハマボウ・ユウナ、オキナワシャリンバイ、オキナワハイネズ、ヤマモモ、カンヒザクラ（寒緋桜）、クロツグ、クロヨナ、ゲットウ、ケラマツツジ、ツワブキ、テッポウユリ、デリハボク、ノボタン、ヒリュウシダ、コモウセンゴケ、ビロウ、フクギ 等

項目	内容 ※代表的なもの
陸の生物	メジロ、シリケンイモリ・イボイモリ、ベニアジサシ、オキナワキノボリトカゲ、イソヒヨドリ、オオゴマダラ、モンシロチョウ、リュウキュウアカショウビン、トノサマバッタ・ショウヨウバッタ、リュウキュウキジバト、リュウキュウヤマガメ、リュウキュウハシブトカラス、ヤギ、クロイワトカゲモドキ 等
海の生物	ノッチの貝、ナガウニの仲間、オキナワハクセンシオマネキ、ノコギリガザミ、オニヒトデ、オオイワガニ・ツノメガニ、ヒメジャコガイ、ジャノメナマコ・クリイロナマコ、ウデフリクモヒトデ 等

●歴史・文化関連資源

項目	内容 ※代表的なもの
史跡・遺跡	クミチジ山(久米頂山)、クバンダキ、阿波連のクバ山、阿波連のカ石(生活館中庭)、阿波連浦貝塚、海神宮、学問の世の神様の墓、グシク(あねき御獄)、鯉節製造工場跡、船越原遺跡(ふなこしばるいせき)、北ウタキ、赤間山の烽火台跡(ヒータティヤー)、渡嘉敷神社、白玉之塔、大谷辻歌碑・ウニギラマ伝説うふな一橋、伊江村民収容地跡記念碑 等
文化財	根元家の石垣、旧日本軍特攻艇秘匿壕、新垣筑兵衛由来のカジノキ群、集団自決跡地、にし山山頂から望む慶良間海峡、赤松隊本部壕

●観光施設関連資源

項目	内容 ※代表的なもの
自然関連施設	森林公園、阿波連園地、青少年旅行村 キャンプ場、青少年交流の家 海洋研修場、渡嘉志久海岸公園、阿波連植物公園 等
展望台	北山展望台(西展望台)、照山展望台、クバンダキ展望台、赤間山展望台(東展望台)、港の見える丘展望台、渡嘉敷林道展望台(アラン展望台)、阿波連園地展望台、前岳林道展望台
遊歩道	村道大谷線の遊歩道、照山園地遊歩道、見花原遊歩道

●体験・アクティビティ

項目	内容 ※代表的なもの
ツアー	日帰り海水浴プラン、日帰り海水浴&BBQプラン、シュノーケルツアー、イエローサブマリン号の水中遊覧船、ハナレ島渡し観光 等
アクティビティ	ダイビング、フィッシング、バナナボート、ウェイクボード、シーカヤック、シュノーケリング、ジェットスキー、サップ、ハイキング 等

●イベント

開催時期	行事
1月3日	合同生年祝賀会
1月初旬・中旬	①成人式、②トリムマラソン、③駅伝大会
2月初旬	とかしきマラソン
3月28日	戦没者慰霊祭
(旧暦) 2月1日	海神祭
4月中旬	海開き
(旧暦) 3月3日	阿波連浜下り
(旧暦) 3月4日	渡嘉敷浜下り
(旧暦) 3月4日	ハーリー (渡嘉敷区)
(旧暦) 5月4日	ハーリー (阿波連区)
(旧暦) 6月25日	大綱曳き
7月下旬	とかしき祭り
8月中旬	あはれんまつり
9月中旬	敬老会
11月中下旬	とかしまるごとフェスタ
11月中下旬	音もだち

●特産品

項目	内容 ※代表的なもの
特産品	まぐろジャーキー、島むんゼリー ヤマモモゼリー、黒米、泡盛 渡嘉敷 等

2-3. 渡嘉敷村の観光関連調査結果

(1) 渡嘉敷村の住民アンケート調査結果

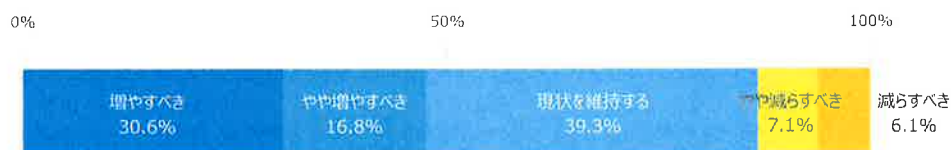
本村では平成28年度に、渡嘉敷村の住民に対して、現状の就業状況や観光客についての意向、また、国立公園指定についてのアンケート調査を行い、以下のとおり実施しました。

●調査実施概要

<調査対象> 渡嘉敷村在住の18歳以上の全村民
(但し、高校生は除き、かつ、戸籍を残したまま村外に住んでいる人は対象外とする)
<調査期間> 平成28年8月10日(水)～10月31日(月)
<配布方法> 各区に調査票を配布し、各戸に配布
<回収方法> 各区長が各戸より回収し、その後、未回収分は調査員が個別に回収を行った。
<回収数> 221票

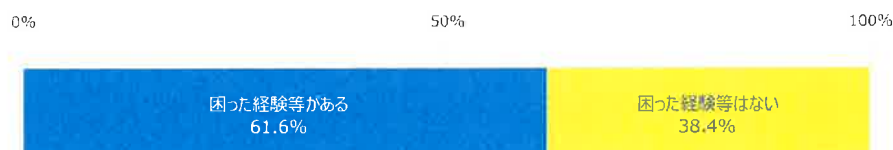
①観光客の増減意向

「渡嘉敷村は積極的に観光客を増やすべきだと思うか。」との設問に対して、「現状を維持する(39.3%)」が最も多く、次いで「増やすべき(30.6%)」となりました。「現状を維持する」と回答した理由としては、島の受入体制、環境面、観光客のマナー面を心配する理由が多く挙げられました。



②観光客に対して困った経験の有無

「観光客で困ったことや危険・不安を感じたことはあるか。」との設問に対して、61.6%が困ったことや危険・不安を感じたことがあると回答しました。



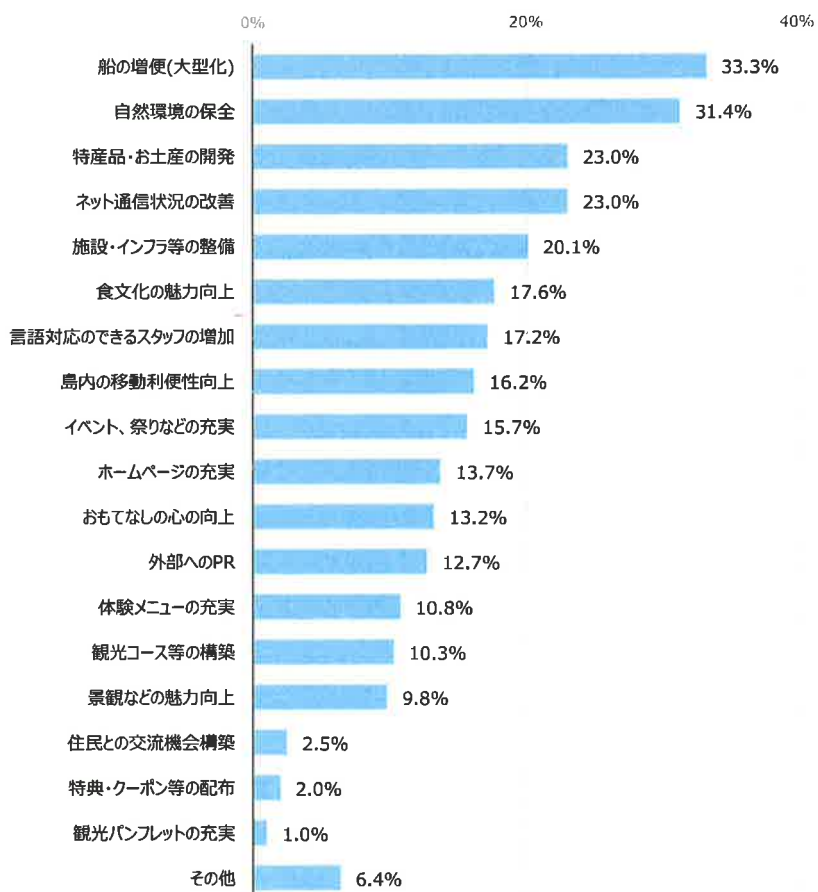
③ 冬の観光の重要度

「渡嘉敷村は冬の観光に力を入れるべきか。」の設問に対して、「力を入れるべき(52.0%)」が最も高く、次いで「どちらともいえない(25.5%)」となりました。



④ 観光に必要な施策

「観光に必要な施策は何か。」の設問に対して、「船の増便(大型化) (33.3%)」が最も高く、次いで「自然環境の保全 (31.4%)」となりました。



(2) 渡嘉敷村観光事業者アンケート調査結果

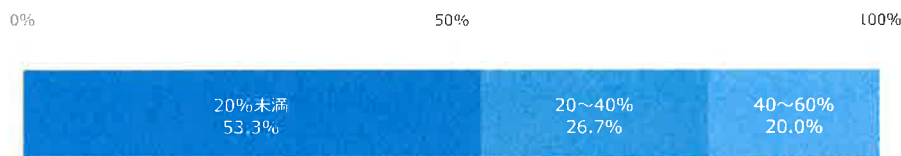
本村では平成 28 年度に渡嘉敷村内の事業者に対して、事業の現状や今後についての意向、外国人の受入、事業所の取組み、及び観光施策への取組み等についてのアンケート調査を行いました。

● 調査実施概要

＜調査対象＞渡嘉敷島内全事業者
＜調査期間＞平成 28 年 8 月 29 日 (月) ～ 10 月 31 日 (月)
＜配布方法＞各事業者へ直接調査票を配布
＜回収方法＞調査員が各事業者へ直接伺い回収
＜回収数＞21 事業者

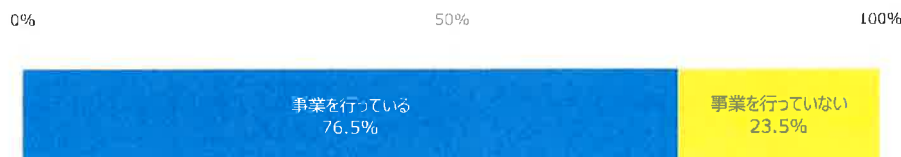
① 閑散期の稼働率

「閑散期の稼働率はどれくらいか。」という設問に対して、「20% 未満 (53.3%)」と最も高く、次いで「20 ～ 40% (26.7%)」となりました。



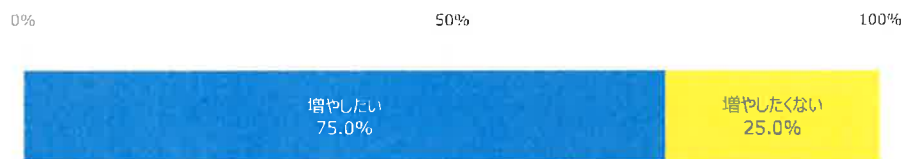
② 冬期の事業の有無

「冬期 (12 月～2 月) の事業を行っているか。」という設問に対して、76.5%が「事業を行っている。」と答えた一方で、23.5%の事業者 (4 社) は夏期だけの営業と回答しました。



③冬期の集客の意向

「冬期（12月～2月）の集客を増やしたいか。」との設問に対して、75.0%の事業者が増やしたいと回答しました。



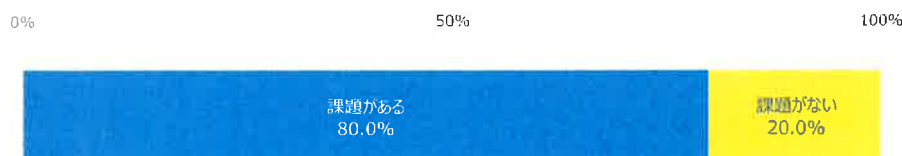
④冬期の観光誘客（行政への期待）

「渡嘉敷村は冬期（12月～2月）の観光誘客に力を入れるべきだと思うか。」との設問に対して、56.3%が「力を入れるべき」と回答しました。次いで31.3%が「どちらとも言えない」と回答しました。



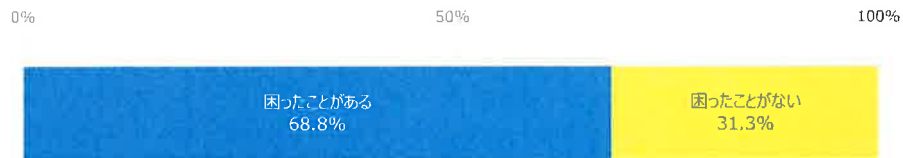
⑤事業継続における課題の有無

「今後事業を継続していくうえで、課題等はあるか。」との設問に対して、80.0%が「課題がある」と回答しました。具体的な課題としては、近年増加する外国人への対応、働く人材確保、施設のハード面の整備等が挙げられました。



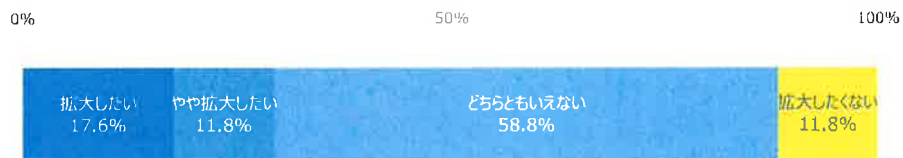
⑥外国人受入で困ったことの有無

「外国人観光客の受入で困ったことがあるか。」との設問に対して、68.8%が「困ったことがある」と回答しました。具体的な内容としては、コミュニケーション、マナー面での理解不足等が挙げられました。



⑦外国人受入の拡大意向

「外国人観光客の受入を拡大したいと思うか。」との設問に対して、「どちらともいえない(58.8%)」、次いで「拡大したい(17.6%)」との回答が多くなりました。どちらともいえない理由としては、外国人観光客のマナーに関する不安が挙げられました。



(3) 渡嘉敷村の観光客アンケート調査結果

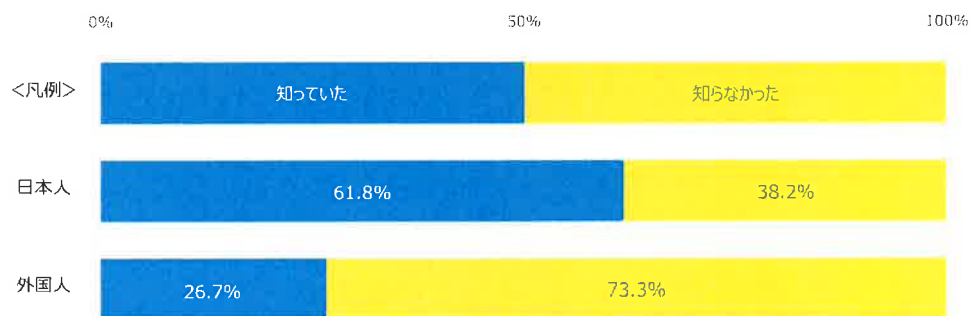
本村では平成 28 年度に渡嘉敷村を訪れる観光客の実態や、消費行動、満足度等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

● 調査実施概要

＜調査対象＞渡嘉敷島に訪れた観光客（日本人、外国人）
＜調査期間＞平成 28 年 8 月 23 日（火）～平成 29 年 2 月 23 日（木）
＜配布方法＞渡嘉敷港から沖縄本島泊港に戻る観光客に対して、調査票を配布
＜回収方法＞沖縄本島泊港で調査票を回収
＜回収数＞日本人 138 人、外国人 30 人 合計 168 人

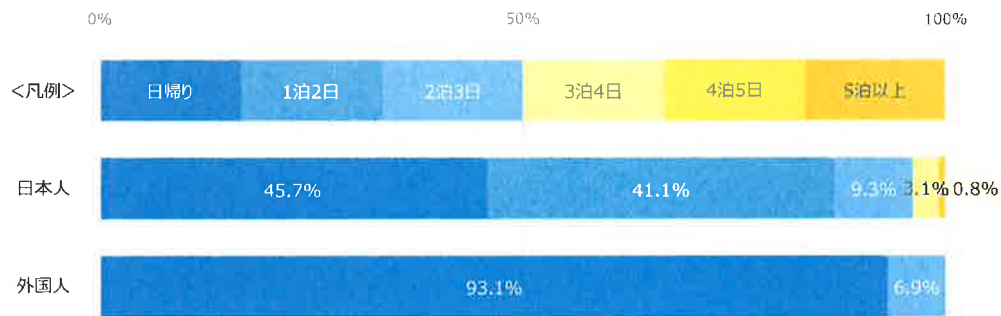
① 渡嘉敷島の認知度

「今回の旅行を計画する前に渡嘉敷島を知っていたか。」という設問に対して、日本人は 61.8%が「知っていた」、38.2%が「知らなかった」と回答しました。外国人 26.7%が「知っていた」、73.3%が「知らなかった」と回答しました。



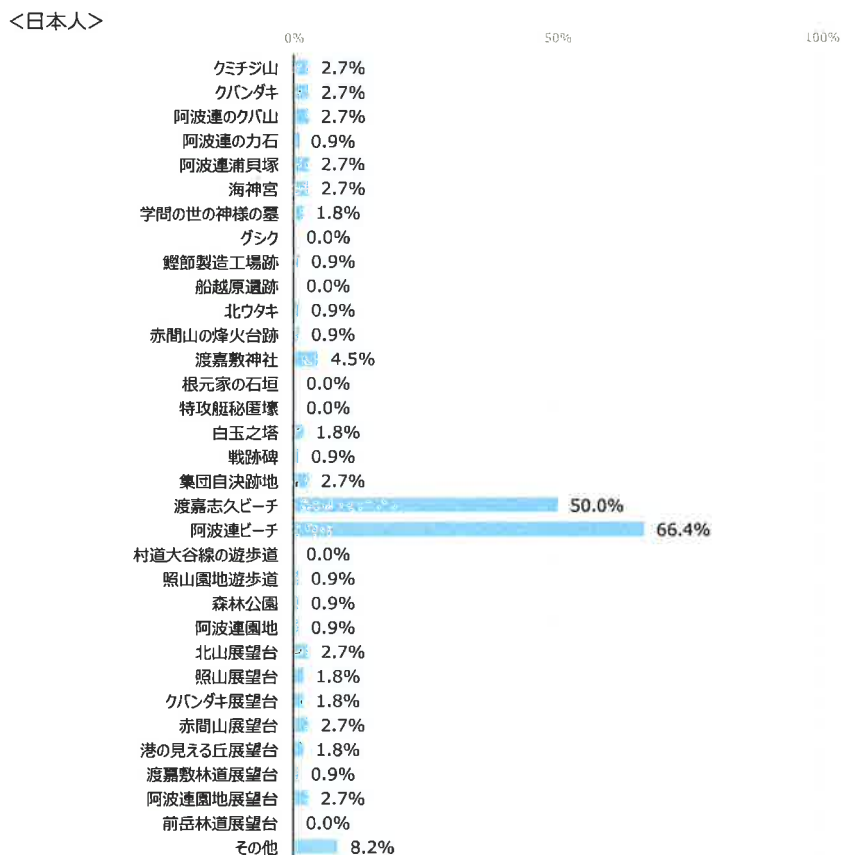
② 渡嘉敷島旅行の滞在日数

「今回の渡嘉敷島旅行の滞在日数はどのようなか。」という設問では、日本人の回答で最も高いのは、「日帰り (45.7%)」、次いで「1 泊 2 日 (41.1%)」となりました。外国人の回答で最も高いのは、「日帰り (93.1%)」、次いで「2 泊 3 日 (6.9%)」となり、日本人、外国人ともに、日帰り旅行が最も高い結果となりました。

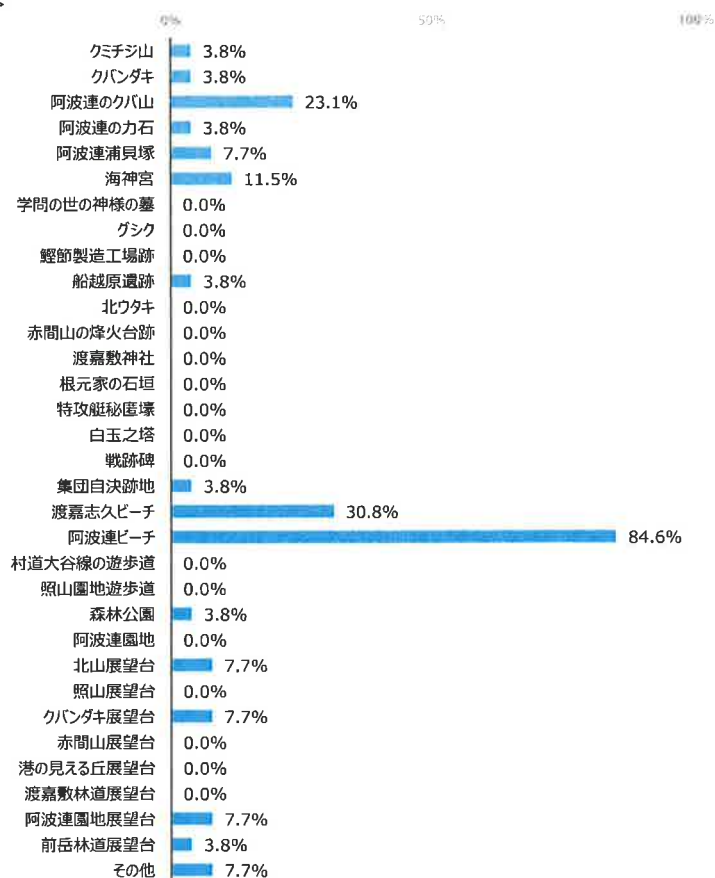


③ 渡嘉敷島の訪れたい場所（来訪前）

「渡嘉敷島来訪前に、訪れたいと思っていたものは何か？（3つまで複数回答可）」という設問では、日本人の回答で最も数が多かったのが、「阿波連ビーチ（66.4%）」、次いで「渡嘉志久ビーチ（50.0%）」となりました。外国人の回答も同様に、最も高いのは、「阿波連ビーチ（84.6%）」、次いで「渡嘉志久ビーチ（30.8%）」となりました。美しいビーチの魅力については十分に伝わっている一方で、その他の選択肢の回答割合が全て4.5%以下となっており、ビーチ以外の魅力があまり伝わっていない状況です。

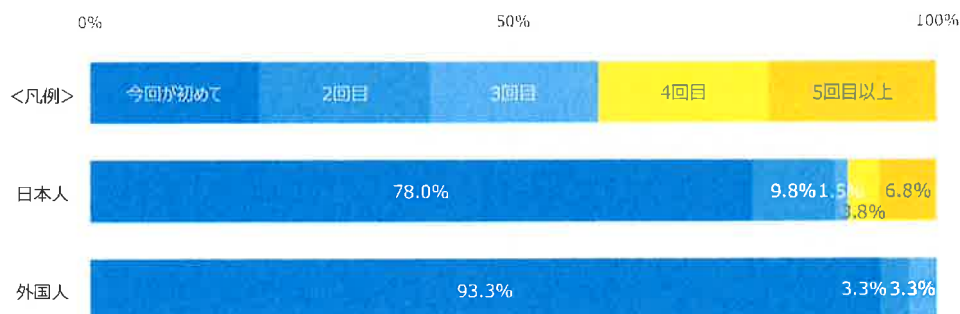


<外国人>



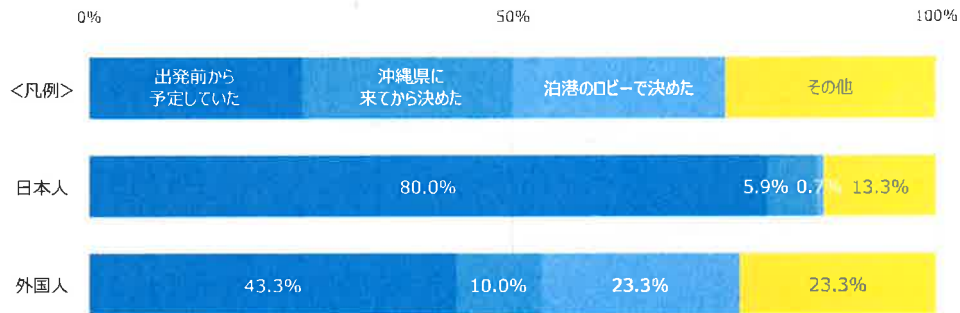
④渡嘉敷島への訪問回数

「渡嘉敷島へ来るのは何回目か。」という設問に対して、日本人の回答で最も高いのは、「今回が初めて（78.0%）」、次いで「2回目（9.8%）」となりました。外国人の回答で最も高いのは、「今回が初めて（93.3%）」、次いで「2回目」「3回目」が3.3%となりました。日本人、外国人ともにはじめての訪問者が最も多い結果となりました。日本人回答者の中でもリピーターは21.9%にとどまりました。



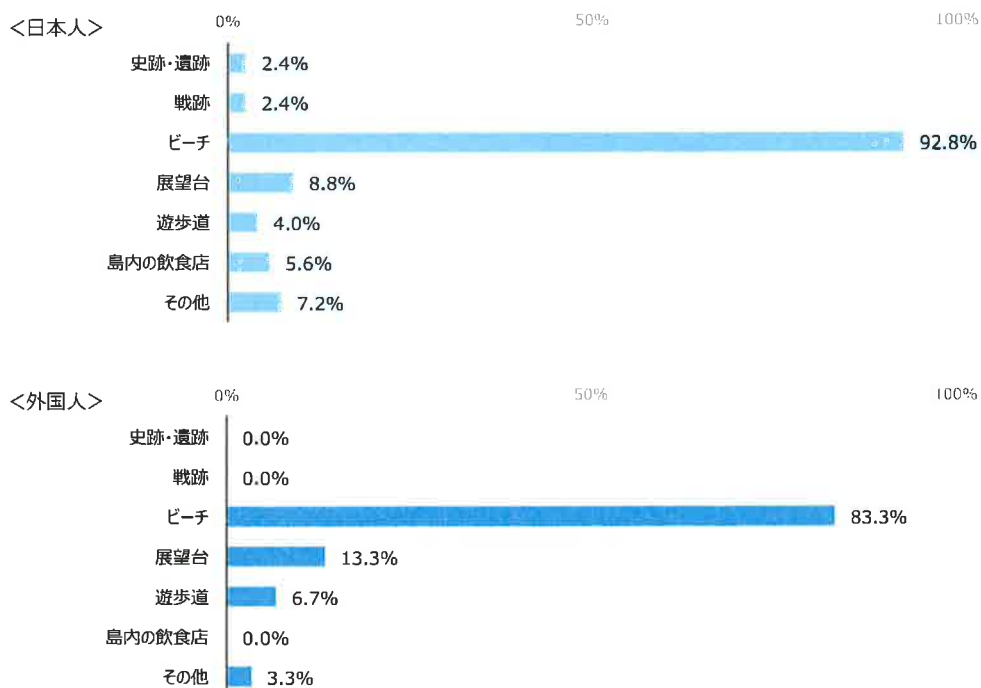
⑤ 渡嘉敷島へ行くと決めたタイミング

「今回、渡嘉敷島へ行くと決めたのはどのようなタイミングか。」という設問に対して、日本人の回答で最も高いのは、「出発前から予定していた（80.0%）」となりました。外国人の回答においても、「出発前から予定していた（43.3%）」の回答が最も多くなりましたが、次いで「泊港のロビーで決めた」との回答が23.3%となっており、外国人は当日旅程を決定する人の割合が日本人に比べて多いことがわかりました。



⑥ 渡嘉敷島でよかった場所

「渡嘉敷島で最もよかった場所はどこか。（3つまで複数回答可）」という設問に対して、日本人の回答で最も高いのは、「ビーチ（92.8%）」、次いで「展望台（8.8%）」となりました。外国人の回答においても同様に、最も高いのは、「ビーチ（83.3%）」となっています。次いで「展望台（13.3%）」となりました。前出の「訪れてみたい場所」についての設問と同様に、実際に島内で訪問した場所がビーチに集中しています。

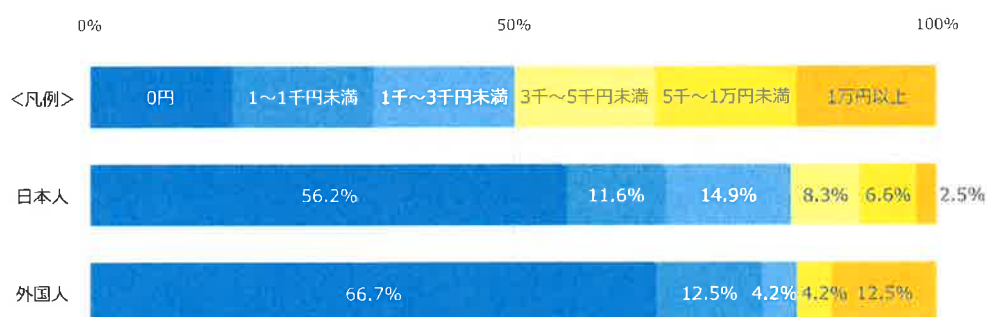


⑦ 渡嘉敷島で使った費用

「今回の渡嘉敷島での滞在中に使った、お土産代、レジャー代、飲食代。それぞれのおおよその金額を教えてください。」という設問に対する回答は以下となりました。

⑦－１．お土産代

日本人の回答では、最も高いのが「0円(56.2%)」、次いで「1千～3千円未満(14.9%)」という結果となりました。外国人の回答については「0円(66.7%)」、次いで「1～1千円未満」「1万円以上」が12.5%という結果となりました。日本人、外国人ともに、消費金額が「0円」という回答が最も多い結果から、観光客に対して訴求するお土産品が不足している、もしくは、広報が不足していることが考えられます。お土産品の開発・改良に力を入れることで、経済効果を生むことが期待できます。



⑦－２．レジャー代

日本人の回答では、「1千～3千円未満(28.7%)」が最も高く、次いで「0円(18.0%)」という結果になりました。外国人の回答においては、「0円(34.8%)」が最も高く、次いで「1千～3千円未満(30.4%)」となりました。お土産と同様、日本人、外国人ともに、レジャーにかける金額が低いことがわかりました。多様なレジャーメニューの提供や、楽しみ方の提案を行うことで、島内消費金額を上げることが期待できます。

